

14時30分解禁

平成30年3月 全国百貨店売上高概況

平成30年4月20日

I. 概況

1. 売上高総額	5,202億円余
2. 前年同月比	0.1% (店舗数調整後/4か月ぶりプラス)
3. 調査対象百貨店	80社 222店 (平成30年2月対比-3店)
4. 総店舗面積	5,604,953㎡ (前年同月比:-3.8%)
5. 総従業員数	69,415人 (前年同月比:-4.1%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	8-10月 1.2%、9-11月 1.4%、10-12月 -0.1%、 11-1月 0.1%、12-2月 -0.9%、1-3月 -0.7%

[参考] 平成29年3月の売上高増減率は-0.9% (店舗数調整後)

【特徴】

3月は、気温上昇による春物需要の高まりに加え、懸念を抱えながらも緩やかな景気回復基調の中、高額消費とインバウンドが引き続き好調に推移した結果、売上高は0.1%増と4か月ぶりに前年実績を超えてプラス転換した。

顧客別では、インバウンド(シェア5.6%/48.1%増)が、花見客を中心とした訪日需要の盛り上がりやリピーターの増加で、約290億円と過去最高(本年1月の約284億円)を更新。一方、国内市場(シェア94.4%/1.8%減)は前月から減少幅を改善したものの前年には届かなかった。

地区別では、10都市が1.0%増と8か月連続プラス。富裕層消費とインバウンド効果の高い6地区(札幌、東京、横浜、京都、大阪、福岡)で前年をクリアした。地方(10都市以外の地区)は1.9%減(11か月連続マイナス)と苦境が続いているが、前月より1.6ポイント改善した。

商品別では、主力の衣料品(0.0%)が回復の兆しを見せている。スプリングコートやジャケットなど季節商材の他、寒暖差の激しさからスカーフや帽子などの服飾品も動き、紳士(1.7%増)・婦人(0.1%増)共にプラス転換した。雑貨(7.0%増)は化粧品と高額商材(美術・宝飾・貴金属)が牽引し16か月連続プラス。ラグジュアリーブランドを中心に好調が続く身のまわり品(2.3%増)も3か月連続プラスとなった。一方、食料品(2.0%減)は、一部物産催事や和洋酒等を含むその他食料品(0.1%増)は堅調だったが、全般的には生鮮(4.1%減)を中心に低調に推移した。また、家庭用品(8.4%減)も売場リースによる面積減などから前年を下回る結果となった。

【要因】

(1) 天候：気象庁発表「3月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、北・東・西日本で気温がかなり高くなった。また、降水量は北日本と東日本太平洋側でかなり多かった。移動性高気圧に覆われやすく、寒気の影響も弱かったため、日照時間は全国的に多く、東・西日本、沖縄・奄美ではかなり多かった。

(2) 営業日数増減 30.9日(前年同月比 +0.1日)

(3) 土・日・祝日の合計 10日(// +1日/土曜1日増)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数124店舗)

①増加した：33店、②変化なし：39店、③減少した：52店

(5) 3月歳時記(ひな祭り、ホワイトデー、卒業・入学、新生活)の売上(同上/有効回答数85店舗)

①増加した：15店、②変化なし：52店、③減少した：18店

全国百貨店 売上高速報 2018年03月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	520,230,977	100.0	0.1 (0.1)
10都市	363,268,943	69.8	1.0 (2.0)
札幌	13,960,611	2.7	1.8
仙台	6,820,279	1.3	-0.8
東京	141,542,399	27.2	0.1
横浜	31,266,765	6.0	2.7
名古屋	34,118,601	6.6	-2.1
京都	21,447,015	4.1	1.7
大阪	72,619,612	14.0	9.1
神戸	12,933,480	2.5	-28.9 (-1.1)
広島	10,487,774	2.0	-1.7
福岡	18,072,407	3.5	4.2
10都市以外の地区	156,962,034	30.2	-1.9 (-3.9)
北海道	1,616,680	0.3	-9.8
東北	8,098,906	1.6	-3.5 (-6.6)
関東	71,509,947	13.7	0.3 (-5.6)
中部	11,807,826	2.3	-0.7
近畿	19,651,198	3.8	-11.1 (-4.7)
中国	11,477,324	2.2	0.7
四国	8,397,119	1.6	-3.2
九州	24,403,034	4.7	-0.9

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	520,230,977	100.0	0.1 (0.1)
紳士服・洋品	33,105,153	6.4	1.7 (1.0)
婦人服・洋品	103,230,014	19.8	0.1 (-0.2)
子供服・洋品	21,464,013	4.1	-0.3 (-0.9)
その他衣料品	10,698,369	2.1	-5.4 (-5.6)
衣 料 品	168,497,549	32.4	0.0 (-0.4)
身のまわり品	67,877,745	13.0	2.3 (1.9)
化粧品	52,116,452	10.0	15.8 (16.1)
美術・宝飾・貴金属	29,343,883	5.6	1.7 (1.0)
その他雑貨	19,652,978	3.8	-5.0 (-3.0)
雑 貨	101,113,313	19.4	7.0 (7.4)
家 具	5,629,812	1.1	-10.3 (-10.8)
家 電	1,035,564	0.2	-9.8 (-10.1)
その他家庭用品	15,851,611	3.0	-7.5 (-8.2)
家 庭 用 品	22,516,987	4.3	-8.4 (-9.0)
生 鮮 食 品	22,457,679	4.3	-4.1 (-3.4)
菓 子	45,251,139	8.7	-2.8 (-2.1)
惣 菜	27,861,119	5.4	-1.5 (-0.7)
その他食料品	34,497,367	6.6	0.1 (0.3)
食 料 品	130,067,304	25.0	-2.0 (-1.4)
食 堂 喫 茶	13,257,486	2.5	-1.6 (-1.6)
サ ー ビ ス	5,492,884	1.1	-1.4 (-1.1)
そ の 他	11,407,709	2.2	-18.2 (-18.2)
商 品 券	11,555,397	2.2	-6.4 (-7.2)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | 1.0% (店舗数調整後／8か月連続プラス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -1.9% (店舗数調整後／11か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	1.0	0.7	8か月連続プラス
札幌	1.8	0.0	2か月連続プラス
仙台	-0.8	0.0	2か月連続マイナス
東京	0.1	0.0	2か月連続プラス
横浜	2.7	0.2	8か月連続プラス
名古屋	-2.1	-0.1	2か月連続マイナス
京都	1.7	0.1	4か月ぶりプラス
大阪	9.1	1.2	15か月連続プラス
神戸	-28.9	-0.7	7か月連続マイナス
広島	-1.7	0.0	18か月連続マイナス
福岡	4.2	0.1	8か月連続プラス
10都市以外の地区	-1.9	-0.6	11か月連続マイナス
北海道	-9.8	0.0	18か月連続マイナス*
東北	-3.5	-0.1	7か月連続マイナス*
関東	0.3	0.0	2か月連続プラス
中部	-0.7	0.0	10か月連続マイナス
近畿	-11.1	-0.4	13か月連続マイナス
中国	0.7	0.0	4か月ぶりプラス*
四国	-3.2	-0.1	4か月連続マイナス
九州	-0.9	0.0	4か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が16か月連続、身のまわり品が3か月連続のプラスとなった。また家庭用品が27か月連続、食料品が10か月連続、衣料品が4か月連続（-0.0% 前年並）のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が36か月連続、美術・宝飾・貴金属が12か月連続、紳士服・洋品が3か月ぶり、婦人服・洋品が4か月ぶり、その他食料品が7か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	0.1	—	4か月ぶりプラス
紳士服・洋品	1.7	0.1	3か月ぶりプラス
婦人服・洋品	0.1	0.0	4か月ぶりプラス
子供服・洋品	-0.3	0.0	6か月連続マイナス
その他衣料品	-5.4	-0.1	29か月連続マイナス
衣料品	-0.0	0.0	4か月連続マイナス
身のまわり品	2.3	0.3	3か月連続プラス
化粧品	15.8	1.4	36か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	1.7	0.1	12か月連続プラス*
その他雑貨	-5.0	-0.2	11か月連続マイナス*
雑貨	7.0	1.3	16か月連続プラス
家具	-10.3	-0.1	6か月連続マイナス
家電	-9.8	0.0	2か月ぶりマイナス
その他家庭用品	-7.5	-0.3	24か月連続マイナス
家庭用品	-8.4	-0.4	27か月連続マイナス
生鮮食品	-4.1	-0.2	48か月連続マイナス*
菓子	-2.8	-0.2	4か月連続マイナス*
惣菜	-1.5	-0.1	6か月連続マイナス*
その他食料品	0.1	0.0	7か月ぶりプラス*
食料品	-2.0	-0.5	10か月連続マイナス
食堂喫茶	-1.6	0.0	11か月連続マイナス
サービス	-1.4	0.0	4か月連続マイナス
その他	-18.2	-0.5	3か月連続マイナス
商品券	-6.4	-0.2	85か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

平成30年3月 東京地区百貨店売上高概況

平成30年4月20日

I. 概 況

1. 売上高総額	1,415億円余
2. 前年同月比	0.1% (2か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭1.7%(89.9%) : 非店頭-12.2%(10.1%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成30年2月対比±0店)
5. 総店舗面積	845,606㎡ (前年同月比:-3.0%)
6. 総従業員数	17,610人 (前年同月比:-3.0%)
7. 3か月移動平均値	8-10月 2.5%、9-11月 2.7%、10-12月 1.5%、 11-1月 1.5%、12-2月 0.5%、1-3月 0.1%

[参考] 平成29年3月の売上高増減率は-0.2%

【特 徴】

- (1) 東京地区入店客数は2.1%増と5か月連続増。当月は好天に恵まれたほか、都内各店が積極展開した物産催事・文化イベント、あるいは改装効果等も寄与して前年実績を超える入店状況であった。その結果、売上高も0.1%増と2か月連続でプラスした。
- (2) 商品別では、衣料品(1.2%増)が4か月ぶりにプラスに転じた。気温上昇から春物商材が順調に推移し、コート、ジャケット、ブラウス、スカート、ワンピース、カットソーなど重衣料から軽衣料に至るまで幅広く動き、紳士服、婦人服、子供服とも前年をクリアした。
- (3) 食料品(0.2%増)も2か月ぶりにプラスとなった。月後半に満開を迎えた花見関連需要が好調に推移した他、和洋酒や食品催事を含むその他食料品(4.5%増)の活況もプラスに寄与した。半面、未だ不漁不作による価格高騰の影響が残る生鮮食品(3.6%減)や、ホワイトデー商戦が低調に推移した菓子(0.9%減)は前年実績に届かなかった。
- (4) 身のまわり品(2.1%増)は3か月連続プラス。ラグジュアリーブランドに加え、新社会人のビジネスニーズから紳士・婦人靴等の服飾雑貨に動きが見られた他、ファッションの軽装化からネックレスなどのアクセサリも好調であった。
- (5) 雑貨(6.6%増)は16か月連続プラス。化粧品はUVケア商品や関連イベントも好評で国内外ともに高伸。高額商材(美術・宝飾・貴金属)や、その他雑貨も前年をクリアした。一方、家庭用品は前年の外商の大口受注の反動や売場面積縮小等により、マイナスに転じた。
- (5) 4月中間段階の商況は、1.4%増(4/16)で推移している。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比 +0.4日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見ると傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
 - ①増加した: 6店、②変化なし: 6店、③減少した: 7店
- (3) 3月歳時記(ひな祭り、ホワイトデー、卒業・入学、新生活)の売上(同上/有効回答数12店舗)
 - ①増加した: 3店、②変化なし: 7店、③減少した: 2店

東京地区百貨店 売上高速報 2018年03月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	141,542,399	100.0	0.1
紳士服・洋品	11,008,945	7.8	2.9
婦人服・洋品	24,869,940	17.6	0.4
子供服・洋品	6,020,768	4.3	3.2
その他衣料品	2,315,396	1.6	-2.3
衣 料 品	44,215,049	31.2	1.2
身のまわり品	19,724,953	13.9	2.1
化粧品	15,540,023	11.0	10.6
美術・宝飾・貴金属	8,465,323	6.0	0.5
その他雑貨	6,258,635	4.4	5.6
雑 貨	30,263,981	21.4	6.6
家 具	1,561,476	1.1	-0.4
家 電	591,848	0.4	-14.0
その他家庭用品	4,789,893	3.4	-15.7
家 庭 用 品	6,943,217	4.9	-12.5
生 鮮 食 品	4,088,493	2.9	-3.6
菓 子	11,084,474	7.8	-0.9
惣 菜	6,399,116	4.5	-1.1
その他食料品	9,123,036	6.4	4.5
食 料 品	30,695,119	21.7	0.2
食 堂 喫 茶	3,091,224	2.2	-1.3
サ ー ビ ス	2,421,017	1.7	0.2
そ の 他	4,187,839	3.0	-29.7

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率(%)
商 品 券	2,819,838 千円	-2.6
従 業 員 数	17,610 人	-3.0
店 舗 面 積	845,606 m ²	-3.0

営 業 日 数	31.0 日	前年	30.6 日
---------	--------	----	--------

NEWS LETTER

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が16か月連続、身のまわり品が3か月連続、食料品が2か月ぶり、衣料品が4か月ぶりのプラスとなった。また、家庭用品が2か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が36か月連続、美術・宝飾・貴金属が11か月連続、その他雑貨が4か月連続、子供服・洋品が2か月連続、その他食料品が2か月ぶり、紳士服・洋品が3か月ぶり、婦人服・洋品が4か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	0.1	—	2か月連続プラス
紳士服・洋品	2.9	0.2	3か月ぶりプラス
婦人服・洋品	0.4	0.1	4か月ぶりプラス
子供服・洋品	3.2	0.1	2か月連続プラス
その他衣料品	-2.3	0.0	6か月連続マイナス
衣料品	1.2	0.4	4か月ぶりプラス
身のまわり品	2.1	0.3	3か月連続プラス
化粧品	10.6	1.1	36か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	0.5	0.0	11か月連続プラス*
その他雑貨	5.6	0.2	4か月連続プラス*
雑貨	6.6	1.3	16か月連続プラス
家具	-0.4	0.0	4か月連続マイナス
家電	-14.0	-0.1	7か月ぶりマイナス
その他家庭用品	-15.7	-0.6	12か月連続マイナス
家庭用品	-12.5	-0.7	2か月ぶりマイナス
生鮮食品	-3.6	-0.1	25か月連続マイナス*
菓子	-0.9	-0.1	3か月連続マイナス*
惣菜	-1.1	-0.1	3か月連続マイナス*
その他食料品	4.5	0.3	2か月ぶりプラス*
食料品	0.2	0.0	2か月ぶりプラス
食堂喫茶	-1.3	0.0	7か月連続マイナス
サービス	0.2	0.0	4か月ぶりプラス
その他	-29.7	-1.3	3か月連続マイナス
商品券	-2.6	-0.1	2か月ぶりマイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>